

平成22年2月15日（月）

○議長（中西峰雄君）続きまして、順番2、
9番 上田君。

〔9番（上田良治君）登壇〕

○9番（上田良治君）おはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、これより通告に従い、一般質問を行います。

市長選挙に挑む木下市長のめざす公約についてお伺いします。

市長は、在任中に実施すべき主な公約を掲げ、市民のための市政をめざして、来月とり行われる橋本市長選に臨まれております。昨日は、今回の選挙の活動の拠点となる事務所を開かれ、決起集会を開催されたところ、多くの来賓の方々をはじめ、県議会議員、そして木下市長を支援する市会議員の同志が多数参加をされ、約千二百数名のご参列者の中で、市長は主な公約を熱弁され、盛大にとり行われました。再選を果たせば、市民生活に密着した施策を推進するとして、在任中に実施する主な公約としていくつか挙げられております。そのうち、豊かな心を育む充実した教育を進めますということ、細かく七つ挙げられている中で、以下、二つの公約について中身を詳しくお伺いしたいと思いますので、質問をいたします。

まず一つ目は、(仮称)あやの台小学校の開校についてお伺いします。(仮称)あやの台小学校を在任中に開校しますと公約されておりますが、何ゆえ新設開校が必要なのか。開校時期はいつ頃で、予算はいくら要るとか、土地は市が購入するのか借地でいくのか、南海電気鉄道株式会社との話し合いはどのように進んでいるのか、学校規模はどの程度なのかなど、開校に向けての具体的な計画をお聞かせいただけます。

2点目に、小・中学校の耐震化工事についてお伺いします。市内の小・中学校の耐震補強工事を平成24年度までに完了しますと今回公約されております。

本市は、当初の計画で耐震2次診断の結果、I s 値0.3未満の学校は2校6棟ということで、21年度に応其小学校の耐震補強工事を終え、22年度に高野口中学校の耐震補強工事を計画するとしておりましたが、高野口中学校と西部中学校の耐震補強工事を21年度事業として補正予算に計上すると説明がありました。

そのほかの耐震基準を満たさないI s 値0.7未満の校舎については、22年度から24年度までに随時補強を行うとしておりますが、このたびの政権交代により、行政刷新会議の事業仕分けの中で「高校授業料の無償化で予算が必要だ」また「公立学校の施設整備事業は耐震補強に集中すべきだ」と指摘されたため、文部科学省は、老朽化校舎の改修などへの補助を削減することで対応すると言っていることから、当初の自治体の要望が望みどおりに進まず、予算計上された工事は完了されても、あとの耐震性のない校舎や建物は今後も取り残されるのではないかと懸念をいたします。

財政難の市が単独ではできない状況にあるにもかかわらず、国に「はしご」を外された形の中で、今後、どのような計画を用いて24年度の期限までに完了していかれるのかお聞かせをいただきますようお願いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（中西峰雄君）9番 上田君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）皆さまおはようござい

ます。

それでは、上田良治議員のご質問にお答えをしてみたいと思います。

はじめに、あやの台小学校の開校についてのお尋ねであります。

あやの台小学校が平成25年4月開校に至りました経過につきましては、7番議員にお答えいたしましたとおりでございますが、また、あやの台小学校用地は覚書のとおり、南海電気鉄道株式会社があやの台中心部から東方に約2万6,000㎡の用地を確保し、橋本市に無償提供することとなっております。

建設にあたりましては、学年当たり2学級規模の校舎を予定いたしてございまして、屋内運動場とプールをあわせ、約14億5,000万円の建設工事費を見込んでございます。

南海電鉄株式会社との話し合いにつきましては、建設にかかる費用は、国負担分約6億5,000万円を除きまして、残り8億円を市と南海電気鉄道株式会社でそれぞれ折半という形で50%、金額にして4億円を負担し合うことで話し合いがついておるわけでございます。なお、市負担分の4億円の95%は合併特例債を活用してまいります。

次に、小・中学校の耐震化工事についてありますが、子どもの安全を第一と考え、平成24年度までに耐震補強工事を行っていきたいと考えております。

高野口中学校と西部中学校につきましては、おただしのとおり21年度の予算の確保を図ることで、国の安全・安心な学校づくり交付金の加算措置を受けることができることとなりましたので、21年度3月補正に計上をさせていただいております。なお、予算は全額22年度に繰り越し、22年度で工事を予定しています。

あとの耐震補強が必要な施設につきましては、I s 値が低い施設から順に年次計画を立

て、補強工事を進めていきたいと考えております。

なお、政権交代による耐震補強等に係る補助金が削減されるおそれもございますが、市単独事業でやっていけるのかというご質問でございますが、確かに新聞紙上で、文部科学省の予算の補助金の配分が変わるかもわからないということが掲載されておりますけれども、県に確認をいたしましたところ、そのような情報は聞くが正式に文書では届いておらない、そういう答えが返ってくるわけでございます。今後、文部科学省の考え方を示す文書が出れば、その時点でこれからの対策を十分検討をしてみたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上で答弁といたします。

○議長（中西峰雄君）9番 上田君、再質問ありますか。

9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございました。

先ほど7番議員とも、あやの台小学校の開校についてはいろいろ答弁いただいた中で理解をしておるところですが、あやの台の児童数が増すと、増加する推計であるので、このままでは隅田小学校もパンクしてしまう状態やと。パンクしてしまう状況にあるので、今回、南海電気鉄道との話し合いの中で、国との予算配分というか、市の持ち出しも少なく済むと。そういったことから、あやの台に1校開設したいよと、そういった意図はよく理解をいたすところであります。

しかしながら、いろいろと隅田小学校も老朽化しておるといことがございまして、新設を望む父兄の声というのもございます。また、新設が無理なら大規模改修をしてほしいという、こういった声もございます。そうい

ったことで、一方、児童にいろいろと聞くんですが、新しい友達があやの台の関係の子とできているのに、また分かれ離れになってしまうというのは寂しいという、こういった声も聞きます。またそれから、今、運動会は盛大に行われておるんですが、分かれることによって盛り上がりが出てしまうんじゃないかという、こういった声もお聞きします。そして、この隅田地域というのは特に歴史のあるまちでございますので、そういった地域の歴史や文化をともに学んでいけなくなるようなおそれも、今後はあるんじゃないかというような意見もお聞きするわけでございます。そういったことで、この際、あやの台に立派な校舎をつくるなら、今の隅田の小学校も受け入れられるような立派な校舎を建設してもらったらどうかという、こういう声も確かにお聞きいたします。

それと、適正規模で言うと、西に1校建設してもらおうのが本意やないかという、こういった声もお聞きするんです。また、今の隅田小学校を立派な校舎にして、あやの台の生徒も、児童も受け入れられるような校舎の建設をしてくれと。これはなかなか南海電気鉄道が予算配分で、今の小学校を造成する場合にはうんと言うてくれるかどうか分からない、どうなっておるのか分からないんですが、だいたい、今言わしてもうたことを検討されて今まで来たのかどうか。今言わしていただいたような意見を吸い上げて、今回のあやの台に1校を建設するという、開校することについてのどういったお話し合いがあったのかどうかというのを、もう一回お聞かせください。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）基本的な問題を、私、今申し上げておきたいと思っております。橋本市は、

昭和四十何年から長期総合計画を立てて、ベッドタウンとして14万4,000人の人口を張り付けていこうという構想で基盤ができたわけですね。南海は早くから土地造成が終わった。ところが、時代の変化で急変した。その長期総合計画の見直しは何回かされておりますけれども、終始やはり団地構想ということは橋本市の骨であります。これを崩しては何もならない。私は、先代、先々代からの市長からの引き継ぎも忠実に守って今日来ておるわけですが、時代の変化が激しいということもやむを得んと思っております。

しかしながら、あやの台地区は2,300戸粗造成して2,300戸の区画。小峰台と城山台と合体したほどの規模であります。それで、これにつきましては、できるだけ当初、年に200戸張り付けという話し合いが市と南海と持ったわけでございますが、100戸に見直しまして、それが、しかもまたこういう時勢であるだけに、今は50から60戸しか入らない。そのうちでも、紀の川、吉野川流域が60%以上ですよ。この流域のね。それを逆にしなければならぬと私は強く、大阪から7割以上入れなければならないという基本を南海とも話し合いをしておるわけで、南海が体制を今強化しました。徹底して増やしてくれないかんだということですね。

そういうことで、ああいう学校、いつひょっとできるとか、これは人口の推移を見守りながら、適正な時期に適正な配置をしていくというのが公共施設なんか基本であります。急にものすごく増えたら、もっと早く進んでおるかわかりません。しかし、緩慢なために、ここ3年先に開校していくというのが、私は、大阪からの誘致には、やっぱり学校もないようなところということも非常に批判されておるわけでございます。

したがって、今ではあまり大阪のほうから

の来ないんですね。そこに大きな問題があるので、やはり公共施設、病院、郵便局、金融機関、こういうものがきちっと備わった団地は非常に伸びておるといこと、これは確かであります。そういう面で、教育委員会とも相談の上で決断をいたしたわけでございまして、橋本の人口が年に500人ずつ減っておるといのは皆さんご承知のとおりやと思うんです。これ、百年たったらどないなるんかといことですよ。合併してもう55年たつんですね。非常に減ってきて、これから50年したら半分以下になるん違いますか。これを紀の川中流域の核都市として、飛躍的な人口増で、私もきのうも申し上げましたように、やはりしっかりとしたまちをつくっていくためには、ある程度の先行投資もやむを得ない、そう思っておるわけでございしますので、ご理解とご協力をいただきたいと思ひます。

以上でございます。あと補足は次長のほうからいたさせます。

○議長（中西峰雄君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）いくつか再質問された中で、私のほうからお答えします。

まず、隅田小学校の現地で新設できないかというおたしでございしますが、この件については、今まで耐力度調査等をやってきました、国庫補助としては認められないといことがございします。

それと、児童を隅田小学校とあやの台に割ることによって、運動会の盛り上がりやら、それから寂しくなるというよな、そういったソフト的な面での対応といつたところは、この間PTAとも話をした中では、十分そういったところで配慮が要るなとい話をしてございします。

それと3点目の、隅田小学校の関係の周辺の開発につきましても、まだまだ余地がございまして、その辺で先細りするといこと

はないと考えております。

それと、もう一点、あやの台のほうで隅田小学校のほうも受け入れてくれないかといよな声もあると聞きましたが、この前、先日、隅田地区区長会にこのあやの台の件を話しましたところ、相当そのことについては私らは抵抗あるぞといことがありまして、その辺については、一概にそういった意見ばかりではないといことを私ども承知しておりますので、その辺よろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（中西峰雄君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）だいたい理解いたしました。ちょっとあと聞きたいことは、（仮称）あやの台小学校ができると、あやの台の住民だけが限定されるといことですか。それと、これ、通学路の安全性といよなものもあつて、真土地区とか近隣した地区については、このあやの台小学校にも通えるんかどうかといよ、ここまで話し合いをされておるかどうかわかりませんが。それと、学童保育も増設されるかどうかといよのを、この2点、まずお伺ひしたいと思ひます。

○議長（中西峰雄君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）あやの台の具体的な通学の件につきましても、随分昔に、あやの台の開発の件で地元の周辺の方に説明はしたことがあるよに聞いております。25年4月開校をめざして、そういったところも具体的な話はこの間も隅田地区区長会ではしてございしません。そういった今の話の中で、真土地区の方が近くであるのでどうするかといつたところは、今後の詰めの中で話をさせてもらいたいと思っております。

そういったところですよ。

○議長（中西峰雄君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

学童保育については、また今後いろいろと話し合いの中で進めていかれると思うんですが、今の隅田小学校で定員オーバーして、新しく増設して学童保育の校舎を建てられていますね。それとまた隅田小学校にあやの台の方が新しい学校であき教室もまたできてくるということで、その辺もいろいろと話し合いをしながら推し進めていただきたいと、よろしくお願いを申し上げます。

いろいろと市長の熱い思いも、今お聞きしました。(仮称)あやの台の小学校を1校開校することによって、人口をどんどんどんどんあやの台に増やしていくと。そういったことで、今後、平成25年の4月開校に向けて取り組んでいかれることやと思いますが、平成25年の4月、だいたい見てみますと、あやの台の児童数しか隅田小学校より上回っておるとい、そういった推移も見せていただいておりますので、十分理解するところでございます。

そういったことで、今後については、今の隅田小学校、また双方の児童にとって一番良い選択というものを、今後とも十分に話し合いをした上で進めていただきますよう要望をして、この問題については終わりたいと思います。

それと、2番目の小・中学校の耐震化工事についてであります。これについては新聞報道等で、学校の耐震化工事についてはだいたい全国で5,000棟ほどございまして、毎年満額、約3,800億円を補助金として交付されておったということで、それが政権交代の後に、政府の予算としては1,032億円に圧縮をされております。そういったことから、文部科学省の関連予算が約68%減額されるという形に今後なってくるんじゃないかと、そういう心配をしておるところでございます。耐震化工事を限定しながら予算配分を今度していくん

じゃないかというおそれが十分ございまして、学校に補助がつかなくなる公算が非常に高いんじゃないかなということで、今回この質問をさせていただいております。

国の補助がつかなくなってしまうと、やはり耐震化をしたくても単独ではなかなか難しいということで、今後についてはきっちりと、耐震もしていかならんのですが、優先順位、こういったこともきっちりと、今、2次診断だいたい終わられて、I s 値公表しておるとい、そういった中できっちりと優先順位をつけて、今後については耐震補強工事をしていただきたいと思うんですが、その辺についてはどのようなお考えを持たれておりますか。

○議長(中西峰雄君) 教育次長。

○教育次長(西本健一君) 現在、耐震につきましては、21年度から応其小学校、それから22年度、引き続いて応其小学校の耐震の継続部分、それから高野口中学校、西部中学校の、先ほど答弁させてもらいましたように補正で対応して、21年度の予算を即、繰り越して実行していくという、そういうことがございます。

それで、先ほども答弁の中でございましたが、今、加算の措置ができるということで補正対応をさせてもらって、繰り越しの対応の中で22年度中に行うという、そういうところで優先をつけてやってございます。その中で、先ほども言いましたように23年度、24年度、教育委員会での内訳がございまして、各年度年度の予算でそういった配分、政策決定をしていくということになっておりますので、その点は優先を教育委員会から要望させてもらって、それで順次24年度、完了したいという計画であります。

○議長(中西峰雄君) 9番 上田君。

○9番(上田良治君) よく理解しました。今

後とも、その優先順位をしっかりとつけた上で耐震化事業を進めていただきたいと思います。

最後に、市長にお伺いをしておきたいんですが、政府与党は、今回この高校授業料の無償化で、一番命を守る予算を削ってまで実行されるということをおっしゃっておられます。そういった中で、市内小・中学校の耐震工事を、今回、24年度までに実現すると市長が公約されておりますので、こういったことについては、今後かなり厳しいことになってくるおそれもございます。このことについては一般財源からの負担、あるいは地方債を発行しての対応になってくるかもわからないという厳しい選択もございますけれども、これは児童にとって一番安全・安心な施設として、また、学校関係というのは、災害時の地域住民の避難場所としての役割も担っておりますので、ぜひともこの公約を24年度までに実現していただきますよう、よろしくお願いを申し上げたいということで、最後に市長のご決断をお伺いいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）耐震問題の公共施設、とりわけ学校の耐震化、これについては私の政策どおり、いかなることがございましてでも安全・安心の観点から実行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

○議長（中西峰雄君）これをもって9番 上田君の一般質問は終わりました。

この際、11時まで休憩いたします。

（午前10時46分 休憩）